

つなげよう、支え愛の心

# さくら通信



## vol.3

2013年12月末発行。内容の詳細はホームページよりご覧いただけます。

### Activity report

# 福島県 いわき&会津若松を訪問 復興押し花のしおり作り 震災食体験会・協働フェスタ

network sakura NEWS LETTER

## 震災食を作ってみよう！を開催しました

2013年8月25日 / キャッスルイン金沢



地震などの災害時でも簡単にできる調理法を知ってもらおうと、調理体験会「震災食を作ってみよう」を金沢市で開きました。震災食の調理法の普及に努めている石川県栄養士会の協力で開催したもので、講師にはレシピを考案した乙川味巧（おとがわ・みわ）さんと、橋本良子さん、坂瀬孝子さんの3人の管理栄養士さん。

震災食とは、災害で電気やガス、水道が止まっても身近な道具と手軽な材料で作れる食事のこと。カセットコンロなど湯を沸かす道具と鍋、そして耐熱ポリ袋があれば、最小限の水で手軽にバランスのよい食事が作れるというのが最大のポイントです。また、一つの鍋で時間をかけずに調理することで、災害時に不足するエネルギーの節約にもなるということです。



この日は市民ら20人が集まり、参加者は「材料を入れたポリ袋の空気がしっかり抜けているか」などポイントを確認しながら、ご飯や大豆とひじきの煮物、キムチ和えなど5品を作って試食。「手作り感にあふれていて、災害という厳しい状況でも、楽しく料理ができればいいなと思った」「目から鱗が落ちる思い、こんなレシピがあることを知らなかった。本当に役立つと思う」と感想を述べ、私たち一人ひとりが「食の知恵を」持つこと、災害など予期しない事態に遭った時にどのように対応したら良いのか、そんなことを改めて考える機会になりました。



つなげよう、支え愛の心

NPO法人  
災害支え愛  
ネットワークさくら



〒921-8151  
石川県金沢市窪5-571  
TEL: 090-1390-3678  
FAX: 076-259-6971  
<http://sakurapj.jp/>



福島県を訪問しての交流会

## 福島県 いわき&会津若松を訪問

2013年10月5～6日 メンバー11名



今年度の事業として福島県を訪れ、被災地の現状を視察するとともに、住民の方々から復興状況や課題について話を聞きました。

### いわき市平薄磯

副理事長の柳原吉伸さんが、震災直後から復興支援活動に参加した際に知り合って交流を続けている鈴木貴さんと再会しました。

鈴木さんの長女でいわき市立豊岡小4年だった姫花（ひめか）さん（当時10歳）は幼いころから絵を描くのが好きで、絵画コンクールでたびたび入賞。「10年後の自分へ」という作文に「デザイナーになっているか、デザイナーになるため勉強しているのかも」と夢をつづつてもなく、震災で亡くなりました。姫花さんが自宅近くの塩屋埼灯台を描いた絵は、日本グラフィックデザイナー協会の復興支援プロジェクトで選ばれ、ハンカチになりました。瓦礫（がれき）の山は大分なくなりましたが、家が流された跡に基礎だけが残った状態は前回訪問した時と変わっていませんでした。海岸沿いの住宅地にもそろそろ復興事業の手が入り、防災緑地となるようです。現地を訪れ、津波の恐ろしさ、被災地の今を肌で感じ取っていただければと思います。



### いわき市久之浜町

次に向かったのが仮設の商店街「浜風商店街」。この商店街が売り出した花の栽培セット「復興の花」をネットワークさくらが押し花にして作成した「しおり（葉）の里帰り事業」が大きな目的でした。

### 郡山市

郡山市では、福島県中小企業家同友会・後継者塾のメンバー16人との交流会が開催されました。代表の嶋原健太郎さんの挨拶、現地の方よりご報告いただきました。その後の食事で懇親を深めました。参加メンバー全員が感想を述べ、藤弥一司理事長が締めくくりの挨拶をしてお開きとなりました。

#### 食品加工販売業「宝来屋本店」専務 柳沼広さん

大震災を機にアジア各地に輸出してきた取り組みが全て止まった。米サンフランシスコの展示会へ参加できるようになったが、東北6県の商品を出荷するには多くの書類の提出が必要。県産品全てにチェックが入ると多額の費用が発生することを恐れ、中間業者からキャンセルされることに、「ここで諦めたらお仕舞い」と、粘り強く説明することで何とか販売が可能となった。地道な努力で経営していきたい。

#### 受託給食業「フードサービス」常務 渡辺俊さん

##### 「福島には人がいない！！」

政府の発表によると、現在も5万人の方が避難生活をしている。まさに原発事故による放射能の問題。避難の優先順位は「小さい子ども→母親→夫」。一番働いてほしい年代がごっそり避難してしまっている。

復興という名の下に多くの企業が入ってきている。高い人経費で労働者を引き抜くため、地場の中小企業の人材が枯渇している。毎週のように数多くの中小企業が求人広告を出す。採用できていない。仕事があるが働き手がいない状況。人手不足が福島県の経済に大きな影響を及ぼしている。自社努力という域を超えているのが現状。



# ～いわき市・郡山市は今～

報告：濱島大次郎

「サカゼン産業」代表取締役 下田博士さん

●福島県全体の現状を報告

### 【避難】

今年7月現在で約15万人が避難。県外が5万3千人、県内9万6千人。

### 【放射線量】

放射線量は震災直後に比べると低くなっている。子どもに「外で遊んではだめ」「外出時はマスク着用」ということがストレスになるため制限していない。

### 【除染】

住宅の除染計画戸数は今年7月末で約23万2千。完了したのは17.5%にとどまっている。浜通りの線量が高い地区は除染をしないと帰ることができない。住宅は高圧洗浄する。庭の表土は3センチ削って袋材に詰め、敷地内保管。中間貯蔵施設の建設地は決まっていない。郡山には仮の保管場所すらない。

### 【健康】

18歳以下の県民に甲状腺の検査を実施。放射性物質を体外から計測する装置で内部被曝量を調べる。17万5千人対象の検査で他県（青森、山梨、長崎）の調査結果と変わらなかった。結婚する時に「福島県民はダメだ」と言われることがないように願っている。

### 【モニタリングについて】

コメについて全量全袋検査を行っている。市場に出回っている商品は厳しい検査を通ったものなので、福島県産は日本一安全な食材だと思っている。水産物の試験操業が9月下旬に再開された。福島産だからと避けるのではなく、厳しい検査を通して市場に出回っているという認識を持ってほしい。2020年東京五輪が決まったが、政府が公約したので、原発被害に苦しめられている方々への対策に真剣に取り組んでほしい。



## 会津若松市 鶴ヶ城ハーフマラソン

福島のみなさんと一緒に

2013年10月6日(日) 会津若松市

### インタビューを受けるハブニング

翌日、後継者塾の会員4人とネットワークさくらの7人が『会津若松市鶴ヶ城ハーフマラソン』に参加しました。快晴の下、沿道を埋めた市民の方々の応援が本当に温かく、全員が無事完走しました。大会後のイベントでインタビューを受けるハブニングもありました。再会できた皆さん、出会った皆さんに心から感謝。これからも継続して訪問し、努力への労（ねぎら）いを伝えたいと思います。現状をより多くの方々に知っていただくこともしなければなりません。継続することの大切さを感じました。



## 「復興の押し花」福島へ里帰り

### 石川県金沢市

9月28日 / ギャラリーぷらんげっと

被災した商店主らが営む福島県いわき市久之浜町の仮設商店街「浜風商店街」が売り出した花の栽培セット「復興の花」を押し花にして、しおり(葉)づくりに取り組みました。金沢市で押し花教室を主宰する理事の中川千嘉さんの提案で、復興の花を「里帰り」させることにしたのです。金沢市産の事務局に中川さんらメンバーが集まり、青色のヤグルマソウと、県内で咲いたパーペナ、キンモクセイなどを用いて、色鮮やかな名刺サイズのしおり100枚を仕上げました。裏には「一日も早く穏やかな毎日が戻ってきますように」と思いを記しました。



### 福島県 いわき市久之浜町

10月5日 / 浜風商店街

ネットワークさくらの一行は10月5日、いわき市久之浜町の「浜風商店街」を再訪し、商店主らと交流しました。濱島さんが「皆さんの1日も早い復興を願っています」というメッセージを読み上げ、藤弥理事長が押し花のしおりを手渡しました。浜風商店街の女将さんたちは何度も「嬉しい、ありがとうございます」と笑顔で語り、みんなで記念写真を撮りました。

同商店街復興情報館の佐藤智美さんに対応していただきました。仮設住宅から通いながら店を切り盛りしつつ、古里の1日も早い再建を待つ思いを聞き、参加メンバーそれぞれが「復興を願う思い」を新たにしました。藤弥理事長は「これからもネットワークさくらが支援の行動を続け、被災地復興の後押しをしていきたい」と話しています。



昨年のいわきツアーで尋ねた浜風商店街。被災された皆さんに少しでも元気を届けようと思ってたのに、元気をもらったのは私たち。

花には人の思いが宿ると言われます。私たちの思いを花に託し、商店街の皆さんの笑顔に押し花のしおりで感謝を届けよう! 「これこそ私にできることだね」と思いました。

メンバーとともに作った押し花のしおりが浜風商店街の皆さんに届き、金沢から、「忘れることなく一日も早い復興を祈っていること」を伝えられたと信じています。(中川千嘉)

## 「協働フェスタ」に参加しました

10月27日 / 金沢学生のまち市民交流館

### 被災地の物販販売

初の市民協働と交流のつどい「協働フェスタ」が開幕。ネットワークさくらも被災地の物産を販売しました。



日時	1月25日(土) 午後6:30~
会場	キャッスルイン金沢(金沢市此花町10-17)
会費	1人4,000円、小学生以下1,000円 *被災地から県内に移住されている方々は 1人2,000円・小学生以下は無料
申し込み	キャッスルイン金沢 tel: 090-9440-5577(藤織) fax: 076-265-6365 E-Mail: yukiko-f@castle-inn.co.jp

おなさん、お気遣い!

ネットワークさくらの活動に熱心なお持ちの方をお待ちください!

参加ご希望の方は  
**1月21日(火)**  
までにお知らせください!